

サークル活動完了報告書

サークル名	4東CS委員	発表者	酒井 由伊
		リーダー	酒井 由伊
部署	4階東病棟	サブリーダー	林 友香
活動期間	開始;平成24年12月7日 終了;平成25年2月7日	メンバー	酒井 由伊 林 友香 鯉谷 香織 上藤 みどり
会合状況	会合回数 3回 1回あたり会合時間 20分		
所属長/推進メンバー	飯崎 益美	所見欄	
レビュー担当者	(株)麻生 向野 早苗		

テーマ

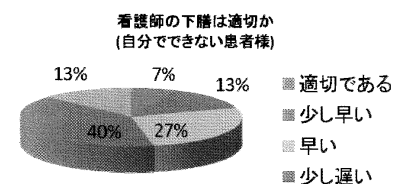
よいお食事タイムを♪

テーマ選定理由

当病棟では胃癌術後患者が多く、食事には30分以上かけてゆっくり食べていただくよう説明しているが配膳時間が早すぎるなどの苦情も多くある。逆に寝たきり患者様の食事セッティングが遅れ、なかなか下膳に来ないという苦情もあり、看護師や看護助手が食事中の患者に何度も訪室することでリラックスして食事ができないという訴えもあった。このことから患者様にあわせた食事環境が必要ではないかと考えたため。

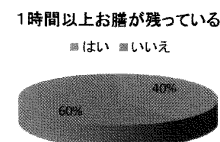
現状把握

患者30人に対してアンケートを実施した。



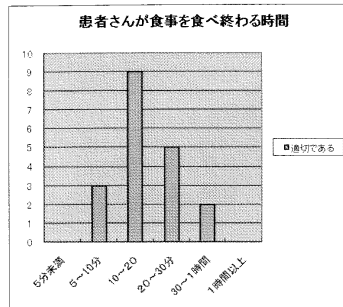
自分で食事ができ、自分である程度下膳ができる患者様が、看護師が下膳にくる時間が適切かアンケートを実施したところ、適切であると答えた患者様は75%、少し早いと感じた患者0%、少し遅いと感じた患者13%、遅いと感じた患者は6%だった。

自分で下膳ができないと答えた患者(セッティングや食事介助が必要な患者)は、上記グラフ参照:適切だと答えた患者は7%と低く、40%の方が少し遅い、次いで早い27%という結果が出た。

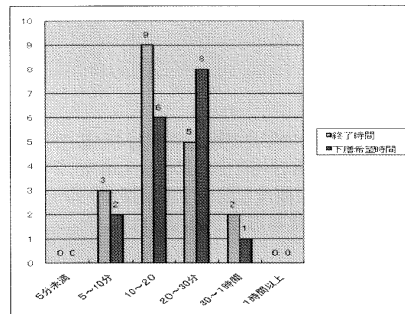


全体的に食後1時間以上下膳が残っていた事があると答えた

患者は40%と半数の患者で下膳残しがある事がわかった。

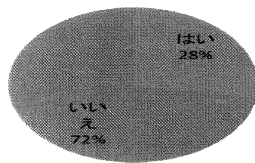


配膳後から患者は約10分～30分までの間に食事が終了している事がわかる。1時間以上かけて食事を食べられる方、5分未満の患者様は0だった。



患者様の食事終了時間と照らし合わせてみると、20～30分後の下膳を希望されている事がわかる。

看護師が下膳確認に何度か訪室することを不快に思った事があるか。

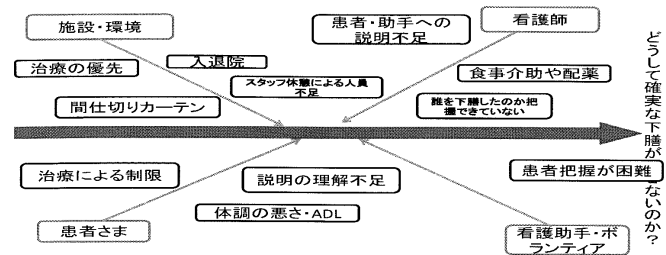


看護師や看護助手が下膳確認のために何度か訪室する事に対して、不快に感じられた患者は28%だった。患者さんの意見では「顔を見て確認してもらえると安心する」「まったく見てもらえないのも寂しい感じがする」と意見もあった。

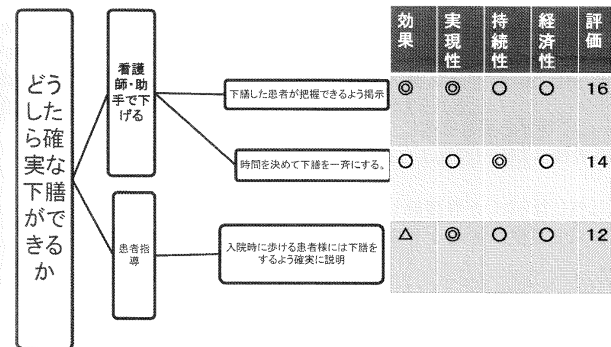
目標設定

確実な下膳ができる！食後1時間以上お膳を残さない60%→80%
下膳時間が適切であると答える患者さんを50%へ。

要因解析



対策立案



対策実施

何を	いつ	どこで	だれが	どうする
下膳確認シール	食前の配茶時	病棟	看護助手	病室前の名前の横につけたテープを右側へ貼る。
確認	食事中	病室	看護師・助手	配膳後15分、40分後に訪室する。
下膳	配膳後15分、40分後	病室	看護師・助手	下膳後はテープを左側へ寄せる。

効果確認

実施後は患者様 30 人にアンケートを行った。

看護師の下膳は適切か



自分では下膳ができない、セッティング等が必要な患者にアンケートを行った。前回よりも適切であると答えた患者様は7%→53%まで上昇しているが、遅い・少し遅いと答えた値は横ばいとなった。患者アンケートでは、下膳時間は気にならないが看護師や看護助手が下膳を頼まなくてもしてくれた。前よりは声をかけてくれるようになったと意見があった。下膳時間を決める事で看護師や看護助手の意識づけにもなったと考えられる。

1時間以上お膳が残っている



前回1時間以上お膳が残っていた事があると答えた人は40%→31%に現象しているが目標値であった80%には届かず。原因としては、下膳時にテープ位置をずらし忘れが多くあった。一人一人の患者に1個ずつつけるのはかなりの手間がかかる等あり。透析患者様が増え、13時30分や14時頃の食事となり、対応を決めていなかった。

標準化

何を	いつ	どこで	だれが	どうする
下膳確認シール	食前の配茶時	病棟	看護助手	病室前の名前の横につけたテープを右側へ貼る。
確認	食事中	病室	看護師・助手	配膳後15分、40分後に訪室する。
下膳	配膳後15分、40分後	病室	看護師・助手	下膳後はテープを左側へ寄せる。

まとめと今後の課題

確実な下膳と患者様を不快にさせるような訪室はしないよう活動を行ってきた。残念ながら目標値には届かなかったが、意識づけて行動することによって患者様にはよくなったと意見を頂いた。下膳確認のテープを個々につけていたため、ずらし忘れが多くあり結局下膳忘れがあった。このことから部屋ごとに確認テープをつけ、透析患者様や胃がん術後患者様など治療で食事時間が遅れる人に対しては個々にテープをつける等が必要であったと考えられる。